

2 高学年用「鑑真」 指導例

当時の朝廷から要請を受けて苦労の末に唐から渡日し、戒律を伝えた奈良時代の名僧 鑑真を本資料では取り上げている。鑑真是、戒律のほか、薬草など当時の唐の多くの知識を日本に伝え、悲田院をつくって貧民救済にも力を尽くしており、その功績は広く知られている。鑑真建立の唐招提寺には国宝の鑑真和上坐像が所蔵されているが、鑑真的没後1250年に合わせ、當時公開できる模像「お身代わり像」が制作され、平成25年6月に唐招提寺において公開された。こうしたことも取り上げ、今も変わらない鑑真和上への人々の敬愛の念を考えさせたい。

学習展開においては、何度も渡日に挑戦し失敗したことや栄穂の死、失明などの逆境にあるとき、またそれらを乗り越えたときの鑑真的心情に共感できるようにする。さらに、渡日した鑑真が、仏教の授戒について伝えただけでなく、民衆のために力を尽くしたことから、人々のために力を尽くそうとする鑑真的志に共感できるようにし、鑑真的不撓不屈の精神がどこからきているのかについて、ワークシートに書き込むことなどを通じてじっくりと考えさせることが大切である。終末に「心のノート」（平成25年度版）を活用するなど、鑑真的生き方から自分なりに学びたいことを考えさせ、自分の目標をもち、それに向かって着実に進もうとする意欲を温められるようにしたい。

◆ 主題名 決意をつらぬいて 指導内容 高1－(2)

資料名 鑑真 (奈良県郷土資料 県教育委員会)

◆ ねらい

度重なる苦難を乗り越えて渡日し、仏教の授戒をはじめ様々な知識を日本に伝えた鑑真について話し合うを通して、自分の目標に向かってくじけず希望と勇気をもって取り組み、やり抜こうとする態度を育てる。

◆ 展開

	学習活動	主な発問と予想される児童の意識	指導上の留意点	備考
導入	1、「お身代わり像」の写真を見て話し合う。	○ この像を知っていますか。 ・お坊さんだな。誰だろう。 ・まだ新しい像だな。 ・もっと古い鑑真的像を見たことがある。	・自由に話し合せ、本時の資料への導入とする。	

	2、資料「鑑真」を読んで話し合う。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 鑑真是、どんな思いから日本に行くことを決意したのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・仏教を正しく伝えることは何よりも大切なことだ。 ・わざわざ日本から来てくれた僧の願いにこたえたい。 ・弟子たちに無理をさせることはできない。 ○ 栄叡を失い、視力を失ってしまった鑑真是、どんなことを思ったのでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・一緒に日本に行くことはできなくなった。栄叡、許してくれ。 ・目が見えなくなってしまったが、日本に行くことはあきらめない。 ・何度も失敗しても必ずやり遂げるぞ。 ○ 平城京に到着したとき、鑑真是どんなことを考えたでしょうか。 <ul style="list-style-type: none"> ・これで日本の人たちのために様々なことを伝えることができる。 ・よかったです。栄叡の願いをかなえることができる。 ・これからも自分のつとめを果たし、人々の役に立ちたい。 ○ 鑑真が日本にたどり着くことができたわけを考えてみましょう。 <ul style="list-style-type: none"> ・どんなことがあってもあきらめないという強い気持ちがあったから。 ・いつも希望を失わなかつたから。 ・自分のためでなく、誰かのために力を尽くしたいという願いがあつたから。 	<ul style="list-style-type: none"> ・鑑真が多く弟子をかかえるようになった理由を考えさせるなど、仏教のために真摯に力を尽くす鑑真の姿に着目させ、決意の強さを理解できるようにする。 ・何度も渡日に挑戦し失敗してきたことや栄叡の死、失明など逆境の数々を丁寧に押さえ、それらを乗り越えようとする鑑真の心情を考えられるようにする。 ・渡日した鑑真が、仏教の授戒について伝えただけでなく、民衆のために力を尽くしたことにも触れ、人々のために力を尽くそうとする鑑真の志に共感できるようにする。 ・鑑真の不撓不屈の精神がどこからきているのかについても、ワークシートに書き込むことを通じてじっくりと考えさせ、書き込みを基に積極的に考えを交流し合えるようにする。
開 始	3、指導者の話を聞く。	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「心のノート 小学校5・6年」(平成25年度版) 16ページを開きましょう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「心のノート」を見たり、鑑真的生き方から学びたいことを出させたりして、自分の目標をもち、それに向かって着実に進もうとする意欲を温める。
終 末			「心のノート」(平成25年度版)